



Let's TANQ便り

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

今号の内容

外国語科（英語）
“Meaningful”な授業を
目指して「評価を問い
直す」ワークショップ
【第1回】の開催報告

研修プログラム開発ワ
ークショップ＜第2弾＞
の開催報告

学校支援コーディネー
ター養成研修会の開催
報告

東京学芸大学
高校探究プロジェクト

外国語科（英語） “Meaningful”な授業を目指して 「評価を問い直す」ワークショップ

【第1回】
2023年8月26日(土)14:00～16:00
オンライン開催

未来の生徒の学びを豊かにする
ために、
「目標」×「評価」×「指導と学習」
を一体化した授業づくりにつ
いて考えてみませんか

外国語科（英語）におけるワークショップを初めて開催しました！

8月26日（土）に、“Meaningful”な授業を目指して「評価を問い直す」ワークショップ【第1回】をオンラインにて開催しました。

高校探究プロジェクトWebページ「外国語科ツールキット(<https://g-tanq.jp/english>)」にて、探究的な学習を計画する際の視点として動画教材を公開しております。その中に、外国語科チームの二人の先生が、学校教育目標をもとに、授業プランや評価課題を検討することを通じて、評価の在り方について対談されている動画を載せております。今回は、この対談動画の内容を事例として紹介し、参加者同士が協働的にワークに取り組みながら、教科の役割や指導と評価の在り方を見直すような機会にしたいという想いで企画しました。

当日は、全国の様々な立場で外国語教育に関わる先生方にご参加いただきました。第1部では、はじめに、なぜ外国語を学ぶのかを踏まえて、生徒にどのような力を育んでほしいかを考えていただき、教科の目標と学校教育目標とのつながりや、なぜ評価するのかを確認しました。その後、プロジェクトチームよりGRASPSというパフォーマンス課題を作成するためのツールを活用した総括的評価の事例を紹介しました。第2部では、ブレイクアウトルームに分かれて、第1部の流れに沿って評価課題を作成するプロセスを体験していただきました。ワークショップ全体を通して、参加者の方と外国語を学ぶ意義や楽しさを共有する時間となりました。

次回は、12月9日（土）に第2回のワークショップを実施します。総括的評価課題の成果物に対する評価や、教師の協働的な取り組みに焦点を当てて企画しております。多くの先生方のご参加をお待ちしております。参加申込については、開催時期が近づきましたらご案内いたします。



外国語科（英語）ワークショップ参加者のご感想

・全国の英語科の先生方と、さまざまな話が共有できて楽しかったです。悩みが同じだったり、意見をいただいたりと有意義な時間が過ごせました。このワークショップで得たものを学校で先生方に共有して、また生徒たちに還元したい！と思います。まだワクワク感が残っていたことに気づけて良かったです。（高等学校教員）

・お話を聞いて、考えさせられることが多かったです。逆向き設計のことも、わかっているつもりでも、実際の現場で自分ができているか（職場でできているか）といわれるとまだまだだな、と感じることも多いので、目標設定の大切さを改めて確認することができました。（高等学校教員）

・共通の題材を基に、単元の目標と評価を考えるような協議にしてみるのも面白いと思いました。（指導主事等）



東京学芸大学
高校探究プロジェクト

第1弾参加の指導主事発信！

研修プログラム開発 Workshop 第2弾

参加者の「目線合わせ」は、WS型研修の成功の鍵となります。なぜ大切か、何が必要か等について対話し、「ICT活用」をテーマとする研修プログラムの「目線合わせ」の題材を共創しましょう！

2023.8.26 Sat 10:00~12:00
オンライン開催



高校教員の研修に関わる指導主事等、校内研修等の担当の方が対象です。

ワークショップを成功に導く、「め線合わせ」「意識合わせ」の仕方を探る

ワークショップ当日は、発信者の指導主事の方より、研修で「め線合わせ」がうまくいかなかった経験をお話いただいた後、ブレイクアウトルームで、課題感を共有していただくところからスタートしました。続いて、西村リーダーが、当プロジェクトで用いている様々な「め線合わせ」の題材を提示し、どのような「め線合わせ」が効果的か、について対話していただきました。その後、「ICT活用」をテーマとしたWS型研修プログラムの「め線合わせ」の題材開発を通して、参加者のみなさまとともに、研修のゴール（意識合わせ）を明確にすることの重要性やワークショップのあり方について見つめ直す時間となりました。

<参加者の声>

・第1弾の振り返りから、第2弾のWSのテーマを決められたという点がとても興味深かったです。振り返りの疑問などから、次の研修（授業）をつくるという視点が得られました。

・研修において、目線合わせの必要性を感じつつ、目線合わせが何なのかを考えていなかったことに気付かされました。イメージを具体的に共有することが大事だと感じました。

・様々な地域や立場の方が集まるからこそ、多様な意見やアイデアなどが出てきて、大変有意義な機会だと感じています。

高校探究プロジェクト

近畿日本^Xツーリスト

「学校支援コーディネーター養成研修会」開催！

昨年度、本プロジェクトが実施した高校生の本音を聴く交流会やイベントにおいて、修学旅行等の宿泊行事と関連付けた「総探」の学習活動の位置づけや受け止めに、先生方と高校生の間でギャップがあることがわかりました。

このことを「おきなわ教育ラボ」の神部愛氏にお伝えしたところ、近畿日本ツーリストにお声がけいただき、今夏、教育旅行営業担当者を対象とした「学校支援コーディネーター養成研修会」の開催が実現しました。

この研修を通して、参加者と修学旅行に新たな価値を見だし、「総探」の活用も含め、探究型の教育プログラム（旅マエ・旅ナカ・旅アト）を創りだしました。以下、研修の目標とプログラムの概要です。

目標	今、求められている修学旅行プランを主体的・協働的に創り出すプロセスを学ぶ
プログラム	<p><1日目></p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ、今、探究が求められているのか 今までの営業体験の振り返り そもそも、よい修学旅行とは <p><2日目></p> <ul style="list-style-type: none"> 「探究活動」に関する話題提供をもとに修学旅行プランを構想 修学旅行に関わる人（ステークホルダー）のマッピング <p><3日目></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標を見据えた修学旅行プランの作成 プレゼンの相互評価をもとに、プランの再検討 <p><4日目></p> <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行プランの最終プレゼン 講評をうけてブラッシュアップ リフレクション&アクションプランの作成

10月5日（木）に開催します「探究ミニセミナー&交流会【第5回】」で、この研修会を開催するに至った経緯や研修の様子、修学旅行プランをお話いただき、「想い出」で終わらない教育旅行のあり方について、ともに考える機会にしたいと考えています。ぜひ、ご参加ください。

詳細・申込み：<https://forms.gle/p87uxkKsDCcC4FEk7>
申込締切：2023年10月3日（火）
※ 申込者に開催日前日までにご連絡をします。

